

# 外国人特別研究員について

令和5年1月  
文部科学省 科学技術・学術政策局  
参事官（国際戦略担当） 付



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

令和5年度予算額（案） : 3,375百万円の内数  
 （前年度予算額） : 3,414百万円

## ■ 目的・概要

- 海外から優秀な人材を我が国に呼び込むため、分野や国籍を問わず、**外国人若手研究者**を大学・研究機関等に招へい
- 我が国の研究者と外国人若手研究者との研究協力関係を通じ**国際化の進展を図っていく**ことで我が国における学術研究を推進

## ■ スキーム

支援対象者	ポストク等
支援経費	往復航空費、滞在費 等
事業開始時期	昭和63年度
支援期間	2年以内
新規採用人数（見込み）	514人

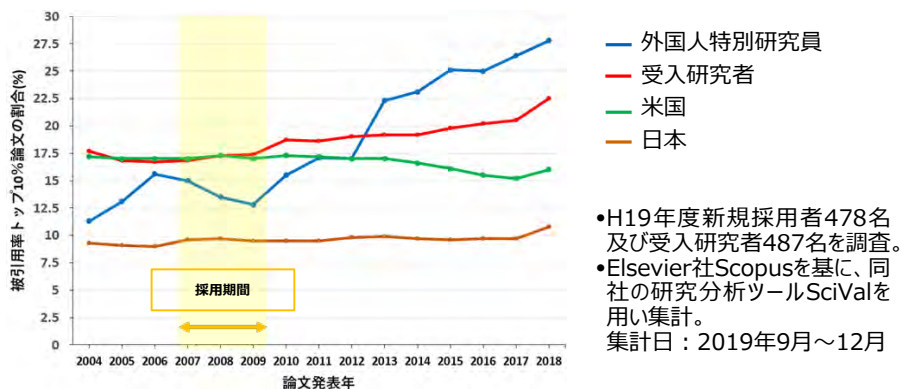


※受入研究者は科学研究費補助金（特別研究員奨励費）又は調査研究費に応募可能。

## ■ 成果

- 我が国の研究環境の国際化や頭脳循環の促進に貢献している。  
 →採用前に比べて、採用期間終了後の被引用数TOP10%論文の割合が増加

被引用数Top10%論文割合の増加



## 外国人特別研究員経験者

### Dr. Patrick Grüneberg

（平成26年度 筑波大学受入、ドイツ）



●外特終了後、明治大学助教を経て2017年より金沢大学准教授に就任。哲学と工学の融合領域を開拓し、日本のAIやロボット研究に独創的な貢献をしている。2017年に日本フイテ協会研究奨励賞を受賞。

### Dr. Patryk Sofia LYKAWKA

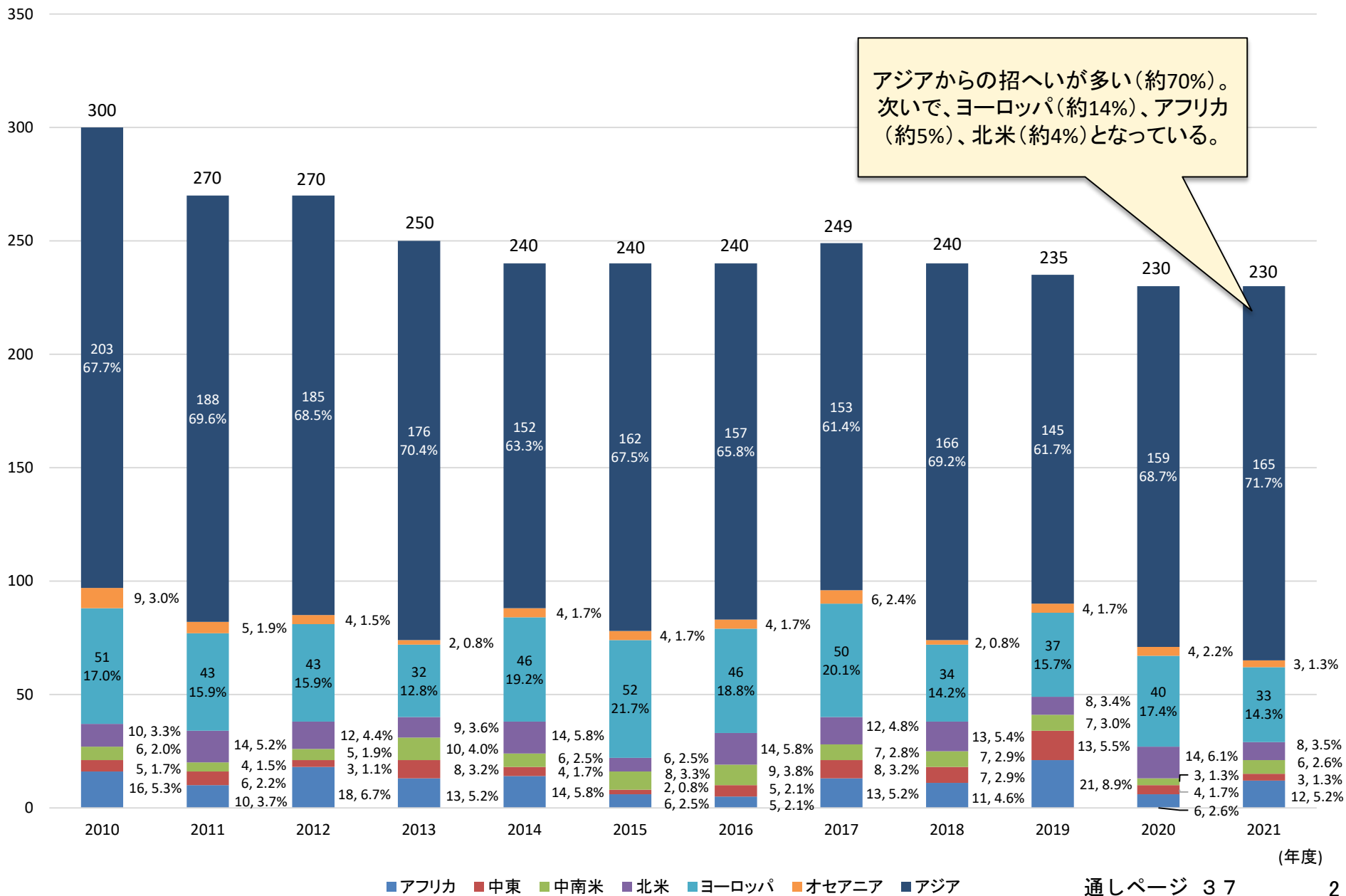
（平成19年度 神戸大学受入、ブラジル）



●採用期間中、受入研究者とともに太陽系「第9惑星」の可能性を発表。外特終了後は、近畿大学助教、講師を経て、現在、准教授。2017年国際天文学連合より功績を称えられ小惑星「(10018) Lykawka」が正式に命名された。

# 外国人特別研究員（一般）（公募） 地域別採用者数の推移

(人)



# 海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援

事業概要：JSPS事業による支援を受けた者等の組織化を図り、日本との諸外国の研究者ネットワークの形成・維持・強化を図る。

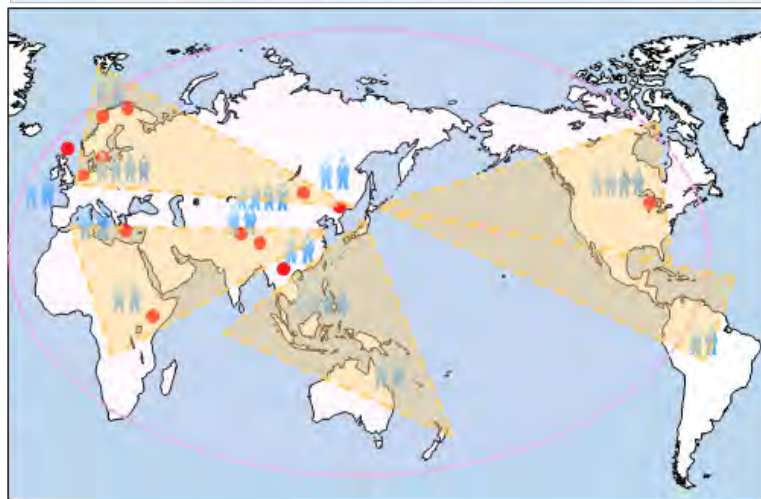
## 研究者コミュニティ（同窓会）設置20か国（設立年、会員数）

 ドイツ(1995年、457人)	 フィンランド(2009年、57人)
 フランス(2003年、638人)	 タイ(2010年、93人)
 英国、アイルランド(2004年、837人)	 中国(2010年、1,375人)
 米国、カナダ(2004年、2,530人)	 フィリピン(2013年、168人)
 スウェーデン(2005年、109人)	 ネパール(2015年、40人)
 インド(2006年、426人)	 デンマーク(2015年、35人)
 エジプト(2008年、85人)	 インドネシア(2016年、178人)
 東アフリカ(2008年、57人)*	 オーストラリア(2017年、252人)
 韓国(2008年、545人)	 ノルウェー(2019年、89人)
 バングラデシュ(2009年、172人)	 マレーシア(2019年、40人)

\*ブルンジ、エチオピア、ケニア、ルワンダ、タンザニア、ウガンダ、ザンビアで構成。

同窓会全会員数：8,183人（2022年3月末現在）

約30,000人のJSPS事業経験者とのネットワークを活用



## 海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援（平成15年度～）

- ◆ 年次総会・シンポジウム等の開催
- ◆ ニュースレターの発行、HPの管理運営
- ◆ 採用者への渡航前オリエンテーションの実施
- ◆ 再招へい事業実施のための公募・選考等

※JSPS海外研究連絡センターとの密接な連携により活動。センターのない国では、在外公館、コーディネータ等の協力により実施。

## 再招へい事業（BRIDGE Fellowship Program）

令和4年度採用数：49人

JSPSの外国人研究者招へい事業等に採用されて来日し、日本での研究活動を終了した者のうち海外研究者コミュニティ（同窓会）に所属する外国人研究者に対し、再度来日する機会を提供（平成21年度～）

期間：14日以上30日以下

令和2年度支給経費：滞在費13,000円（日額）、往復航空券、海外旅行保険  
調査研究費100,000円（上限）

## JSPS Researchers Network(JSPS-Net) (平成28年～)

- ◆JSPS事業経験者を中心とする研究者向けソーシャル・ネットワーク・サービスで、国境を越えて活躍する研究者等のネットワーク、研究者コミュニティの形成を支援するための支援を実施。
- ◆会員数：3,309名（2022年11月末現在）
- ◆人的コネクション、グループ機能、イベント管理機能等を提供。
- ◆様々な分野で活躍する研究者が自らの研究生活について語る「My Research Life」、日本での研究生活の思い出等を語る「Member's Voice」を掲載
- ◆受入希望研究者と若手研究者とのマッチングのための「Seeking early-career researcher」企画サービスを提供



- 約3割が我が国の大学等研究機関で研究を継続。研究水準の向上、研究環境の国際化に貢献。
- 母国等で日本人研究者との共同研究を継続・発展。共著論文を執筆。
- 顕著な研究業績を上げ活躍（ロレアル-ユネスコ女性科学賞受賞、各国のアワード受賞など）。
- 日本と母国との学術交流や科学技術外交等に尽力（駐日大使館科学技術アタッシェ、母国大学の日本研究センター所長、JSPS同窓会会長など）。

# 日本で活躍する外国人特別研究員経験者（例）

**Dr. Patryk Sofia LYKAWKA**  
近畿大学総合社会学部准教授

外特（一般）2007-2009 神戸大学受入 ブラジル

採用期間中、受入研究者とともに太陽系「第9惑星」の可能性を発表。外特終了後は、近畿大学助教、講師を経て、現在、准教授。2017年国際天文学連合より功績を称えられ小惑星「(10018) Lykawka」が正式に命名された。



**Dr. Patrick Grüneberg**  
金沢大学准教授

外特（一般）2014-2016 筑波大学受入 ドイツ

外特終了後、明治大学助教を経て2017年より現職。哲学と工学の融合領域を開拓し、日本のAIやロボット研究に独創的な貢献をしている。2017年に日本フィヒテ協会研究奨励賞を受賞。



**Dr. Sakthi KUMAR**

東洋大学教授

外特（一般）2001-2003 東洋大学受入 インド

外特終了後、東洋大学講師、准教授を経て、2010年より現職。2016年よりバイオ・ナノエレクトロニクス研究センター副センター長。インドとの共同研究を推進する他、Nature誌の編集委員を務める。JSPSインド同窓会創設に尽力し、2006年から現在まで会長を務める。



**Dr. Marian BEISE-ZEE**

立命館アジア太平洋大学副学長・国際経営学部教授  
外特（一般）2003-2004 神戸大学受入、ドイツ

外特終了後、2006年よりタイのアジア工科大学院准教授を経て、2012年より立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授。副学長のほか、学校法人立命館理事補佐、国際協力・研究部長を兼任。



**Dr. Gentiane VENTURE**

東京大学教授・産業技術総合研究所（ジョイントアポイントメント）  
外特（一般）2004-2006 東京大学受入 フランス

外特終了後、2009年度に東京農工大学准教授、2016～2022年2月には同学スーパー教授（Distinguished Professor）を務める。2018年度より産業技術総合研究所フェロー（ジョイントアポイントメント）を兼任。2022年3月より東京大学大学院工学系研究科教授に着任。2022年3月にこれまでのロボット工学分野における日仏両国の交流強化へ貢献した功績が評価され、フランス国家功労勲章オフィシエを受勲。



**Dr. Yonathan ASIKIN**  
琉球大学農学研究科准教授

外特（一般）2014-2016 琉球大学受入、インドネシア

鹿児島大学で学位取得後、2014年度に琉球大学にて外特（一般）として研究に従事。外特終了後、琉球大学でポスドクののち、筑波大学助教を経て、2020年度に琉球大学准教授に着任。



**Dr. Richard CULLETON**

愛媛大学 プロテオサイエンスセンター教授

外特（一般）2002-2004 大阪大学受入、イギリス

外特終了後、長崎大学での任期付助教を経て、平成23年より、同大熱帯医学研究所でマラリア学研究室を開設。令和2年4月より現職。平成22年、Outstanding Review Award from Clinical Infectious Diseases受賞。受入研究者との高被引用共著論文を発表。



**Dr. Benoit COLLINS**

京都大学大学院理学研究科教授

外特（一般）2003-2005 京都大学受入、フランス

外特終了後、2007年よりオタワ大学助教、2014年より京都大学大学院理学研究科准教授を経て、2021年より現職。2022年度に「自由確率論とそのランダム行列への応用」の研究が高く評価され第19回日本学術振興会賞受賞。



# 採用者・受入研究機関からの主な要望と対応状況

## 日本への入国ビザ取得手続への支援

- ・ 日本入国ビザ取得プロセスの概要について手引で案内しているほか、詳細な情報を『Life in Japan: 来日外国人研究者のための生活ガイドブック』に日英併記で掲載。受入研究機関・受入研究者・外国人特別研究員からの個別の質問にJSPSにおいて対応。

## 国保、年金の手続への支援

- ・ 国保・年金の手続きは、外国人特別研究員が居住する地方自治体と受入研究機関の連携において行うのが基本となるが、両制度の概要について手引で案内しているほか、受入研究機関・受入研究者・外国人特別研究員からの個別の質問にJSPSで対応。

## 子育て支援も含めたメンタルケア

- ・ 出産・育児に係る採用の中断制度を設けているほか、申請要件の年限から出産・育児に係る休暇期間を除くことも可能。また、外国語対応のある医療サービスの一部をLife in Japan(日本留学情報サイト)に掲載。

## 採用終了後に焦点を当てた制度設計

- ・ 日本定着に向けて、来日時のオリエンテーションにおいて関連の情報提供を行っているほか、「ジョブフェア」として、日本で就職したOB・OGの経験談を動画で公開。

## 研究費の充実

- ・ 研究費として外特一般では科研費(特別研究員奨励費)を、外特欧米短期では調査研究費を支給している。

## 採用者の地域偏在への対応

- ・ 本事業はボトムアップを基本としており、特定の国・地域の枠を設けず学術的に優れた申請を採用するもの。
- ・ ※ 募集要項の審査方針に「採用者の国籍、受入期間、専門分野等は、なるべくかたよらないこと。とりわけ多様な国からの来日に配慮すること」と記載。